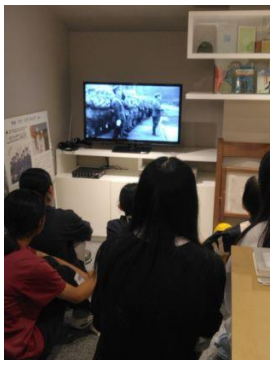
鷺宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.18(2024. 10 月)

社会科同好会編⑨ 寺社めぐり〔1〕＋ わだつみのこえ記念館

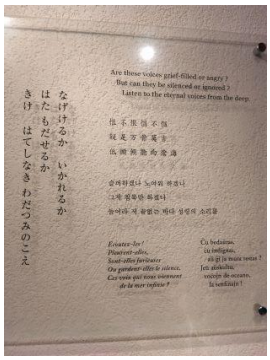
10月27日(日)、社会科教員3名・教育実習生1名・生徒6名で、寺社めぐり〔1〕＆わだつみのこえ記念館(文京区本郷5－29－13)見学に行ってきました。都営地下鉄三田線「白山」駅A3出口に集合し、白山神社・根津神社をめぐったあと、丸の内線「本郷三丁目」徒歩7分の「わだつみのこえ記念館」を見学し、神田明神にも足を延ばしました。今回めぐった3つの神社の共通点は「東京十社」(明治天皇に由来)に含まれている古社であることです。受験生が多数訪れる湯島天神も行けるかな、と思っていましたが、時間切れでした。

来年は戦後80年。戦没学生の遺書や戦争犠牲者に関する資料を見学し、当時に思いをめぐらせました。記念館の名前の由来となった、京都の藤谷多喜雄さんの歌を紹介します。「なげけるか　いかれるか　はた　もだせるか　きけ　はてしなき　わだつみのこえ(嘆いているのか　怒っているのか　それとも　黙っているのか　果てしない　海神＝戦死した人々　の声)」。

以下、生徒の感想の一部を掲載します。



◆今回は特攻の話で実際に写真とかあったりしたけど22歳とか23歳で特攻に行った方がいたことを知ってびっくりした。もったいないと思ったし、いくらお国のため天皇のためといっても、自分の命を捧げるのはほんとにすごいと思った。それで逃げちゃった人がいたのも聞いたけど、怖くて逃げちゃうとか普通のことだと思う。あのパレードみたいな映像を見た時はどんな気持ちで東条英機の話を聞いて行進していたんだろうと思った。・・・死亡報告書があって見た時すごく複雑な気持ちになった。あんな紙一枚で死亡を告げられてもう顔も見れないなんてありえない。あの頃の日本は本当に洗脳のようなことをしている状態なんだと思った。・・・ただ確かなのは特攻を無かったことにしてはいけないこと、そして生き残った人々の苦しみを学ぶことそして伝えて今を大切に生きることだと思います。



◆小学校・中学校で平和学習をしてきましたが、実際に記念館に行って当時の人が書いた手紙などを見て実際に過去に起きたことだと改めて実感できました。また、わだつみのこえ記念館でお話していただいたことは忘れずに心の中にとどめておきたいと思いました。

◆主に学徒出陣のことについて当時の新聞や手紙などの資料を見ることができてよかったです。学徒出陣によって戦地に行くことになった学生たちの思いが書かれたものがたくさんあって見ていて辛くなったし、若い人をわざわざ巻き込まなきゃいけなく、それを見守っていた人たちは戦争に対して悔しい思いがあったのだろうなと強く感じました。神社巡りでは、いくつかの神社を拝観でき、先生や部員たちと話しながらフィールドワークができて有意義な時間でした。

◆今日は授業では習えないことまで学べて良かったです。都心に神社が多いことも発見でした。

東京大学の赤門の向かい側に記念館